

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號一第 卷十第

行發日一月一年九正大

論 說

温情主義と勞働問題……………	法學博士 田島 錦治
手數料決定上の二問題……………	法學博士 神戸 正雄
モリスの文明觀と藝術觀と勞働觀……………	法學博士 河田 嗣郎
所帶統計概説(二完)……………	法學博士 財部 靜治
キヤナンの富の概念に就きて(一)……………	法學士 石川 興二

時事問題

智識階級の解散……………	法學博士 戸田 海市
朝鮮の財政獨立に就て……………	法學博士 小川 郷太郎

雜 錄

生活費の組織的研究の必要……………	法學博士 山本美越乃
判任官生活の實狀……………	法學士 汐見 三郎
獨逸大銀行の取引所仲立業に就きて……………	法學士 大森 研造
我國 ^{に於ける} 新ブルジョア階級の成立(二完)……………	圓 谷 弘
カンニングガム博士逝く……………	法學士 本庄榮治郎
京都帝國大學經濟學會第一回講演會記事……………	

京都帝國大學經濟學會
第一回講演會記事

我經濟學會は十一月二十二日午後一時より第一回學術公開講演會を法學部大講堂に開く、荒木總長田島經濟學部長小川河上山本諸教授岡本事務官を始め會員の來會する者堂に滿つ、先づ田島部長の經濟學部創立の由來并に開會の辭ありて、一時三十分より講演に入る。

第一席山本博士は「余の見たる山東問題」の題下に殖民政策上の見地より山東問題の由來并に之が解決方法を論じ現政府の施政方針の誤れるを指摘して完膚なからしめ滿場をして肅然たらしむ。

第二席小川博士は「朝鮮の財政」に就きて先づ朝鮮財政の獨立と統治問題との關係を説き、朝鮮の豫算を學術的に分晰して文化教育より水利殖林交通勸業に論及し最後に朝鮮財政の獨立の上より關稅の合併劃一を期せざるべからずと喝破し拍手場裡に降壇、終りに田島部長の閉會の辭あり、會を散するの時、正に五時十分。(沙見大森)